

【学年研修目標】

人との関わりの中から課題を見つけ追求していく子

活動テーマ

おいしいお米を作って食べよう

1 教師の手だて

生きる力を高めるために

情報を収集する前に人（友達・教師・活動に何らかの形で関わる人）と適切に関わる能力を高めていきたい。そのためにも自分なりの見通しを明確に持てるように支援をする。（個人の課題づくり）

また、調べたことを適切な表現方法でまとめる能力、自分の考えを人前で発表できる能力を育てるために、効果的で適切な方法の支援をしていく。（課題追求）

意欲関心を高めるために

実際に体験・見学・実習などをし、そこから疑問点・関心事・さらに追求したいことを考えていくようにしていく。また、計画を立て見通しを持ってやり通せるような課題になっているかどうか話し合いをしていく。

（家庭科・自然教室・社会科の学習・田植え・稲刈りなど）

学ぶ力を高めるために

実際に体験したことや、身近な生活・地域のことから疑問・関心事を考え出せる目を持たせたい。そしてさらにさまざまな手段で情報を収集できるようにしていく。収集した情報の取捨選択をし、必要な情報を効果的に活用しまとめる能力をつけるため、個人個人がどの情報を必要としているか見極められるよう声をかけていく。

まとめていく段階で友達と協力しあう場面も出てくると思われる。それも大事な力として高めさせていきたい。（課題追求・収穫祭）

支える力

調べるということにあたって図書室の利用指導を行った。そして必要な資料がどこにあるかを学習。さらに国語辞典、漢和辞典、百科事典の有効な使い方について指導をした。

2 具体的な活動内容と児童のあらわれ

家庭科調理実習

5月の自然教室を楽しみにしていた。なかでも自分たちでカレーライスを作って食べるということに強い関心を示していた。しかし、ご飯を炊飯器以外で炊くという経験を持つ子が少なく、不安にも思っているようだった。

そこで、5月に家庭科の年間計画に位置づけて、ごはんのみそ汁の調理実習を各学級で行った。その後の自然教室では経験を生かし、「水はこれくらいかな？」とか「あわが出てきたぞ。もう少しだ。」など、楽しみながら炊くことができた。



・社会科の学習

社会科では「米作りのさかんな庄内平野」の学習を行い、米の種類、品種改良などにも関心を示している子が多かった。

・6月3日田植え

西山さんの田んぼをお借りし、田植えを行った。西山さんや近所の方々から稲の植え方を教えていただいた。その後、裸足で田んぼに入る。なんともいえないぬるっとした感じに子供達は、きゃあきゃあ言いながら入っていった。数本ずつ植えることや、紐と赤い目印にあわせて、等間隔になるように植えていった。田植えを初めて体験する児童が多く、「思ったより大変だ」「疲れる」「うまくいかない」など、短時間の田植えではあったものの悪戦苦闘したことがわかるような声が返ってきた。



・個人の課題づくり

田植えを終えて、それぞれの個人の課題作りをした。

社会科での学習や、調理実習を生かした課題にする子もいた。

個人の課題

(米作りに関する課題)

- ・今と昔の作り方の違い
- ・今と昔の機械や道具のちがい
- ・害虫
- ・田の生き物
- ・稲の育て方
- ・お米作りの苦勞と工夫
- ・日本のお米のとれる量
- ・おいしいお米の育て方

など

(米料理に関する課題)

- ・おいしいお米の食べ方
- ・いろいろな国の調理法
- ・おいしいお米の炊き方
- ・おにぎりについて
- ・パエリア
- ・チャーハン

など

(お米自体に関する課題)

- ・米の特徴
- ・日本の米の種類や特徴
- ・今の米・大昔の米・
- ・世界の米
- ・品種改良
- ・米の産地
- ・米の栄養

など

・課題追求

個別に行った。図書室、市立図書館、インターネット、実際に田んぼを見る、調理方法を人(母、祖母など)に聞く、など動はそれぞれに広がった。

・クラスでの中間発表

夏休み明けの9月、それぞれのクラスで、個人が調べてきたことの中間発表を行った。夏休みの宿題の一つでもあったので、模造紙にまとめた子、表にした子、写真を撮った子などいろいろなやり方でまとめたものをそれぞれに披露した。

・ 10月22日稲刈り

西山さんの田で稲刈りをさせていただく。6月に田植えをし、その後、授業時間に稲の成長を観察に行ったり、登下校時に観察をしたりしてきたが、何倍にも大きくなった姿を見てあらためて稲の生長を実感できたようだった。

稲の刈り方、束ね方、竹へのかけ方など、ほとんどの児童が初体験で、危なっかしい手つきで行っていた。うまくいかず、手伝ってもらったり、やり直したりする面も見られ、それだけでも「大変だなあ。」とため息をもらす子もいた。貴重な経験となった。



3 今後の課題や活動の見通し

・ 12月に収穫祭を計画している。

- 内容
- ・とれた米（もち米）から餅をつく。
 - ・かんたんなお飾りを作る。
 - ・個人で調べてきた課題をまとめの発表会をする。

・ 収穫祭に向けて（教師側の手だて）

- ・ 新たな課題作りへの助言
（一学期から調べてきたことを児童は、自分なりに解決してきた。一学期に立てた課題から、さらに興味のある方向やさらに追求したものが広がるよう声をかけていく。）
- ・ 個別のまとめの支援（画用紙や模造紙に書いてまとめるという方法だけでなく個にあったまとめ方の支援をする。）
- ・ 餅つき、お飾り作りの保護者への協力呼びかけ